

30 原機（青）049

平成 30 年 11 月 29 日

青 森 県 知 事  
三 村 申 吾 殿

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構  
青森研究開発センター所長 藪内 典明

放射性廃棄物の保管の状況等の報告  
(平成 30 年度第 2 四半期)

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構青森研究開発センターに係る放射能の監視に関する協定書第 4 条第 1 項の規定に基づき、当該期間中における放射性廃棄物の保管の状況等（放射性廃棄物の保管の状況、放射線管理の状況、環境の放射能の測定の結果）を別添のとおり報告します。

以 上

(別添)

1. 放射性廃棄物の保管の状況等

1-1 放射性固体廃棄物の保管量 (平成30年9月30日現在)

建屋	廃棄物種別 容器等	濃縮廃液	フィルタスラッジ	イオン交換樹脂	雑固体廃棄物	フィルタ	機器等	原子炉室一括撤去物	計
燃料・廃棄物取扱棟	2000鋼製ドラム缶	1本	16本	—	475本	13本			505本
	2000SUSドラム缶	—	—	3本	—	—			3本
	3000ドラム缶	—	—	—	—	—			—
	1m <sup>3</sup> 鋼製容器	—	—	—	26個	6個			32個
	3m <sup>3</sup> 鋼製容器	—	—	—	—	3個			3個
	使用済樹脂収納容器				2本				2本
	その他* (大型機器)						4個		4個
保管建屋	撤去物等保管棟	2000鋼製ドラム缶	—	—	—	148本	—		148本
		1m <sup>3</sup> 鋼製容器	—	—	—	41個	—		41個
	原子炉室保管棟	原子炉室一括撤去物						1体	1体

\*：その他 (大型機器) の内訳：充填ポンプ2個、イオン交換塔2個

2. 放射線管理の状況

2-1 被ばく線量分布

・当該期間における検出限界以上の被ばくは無かった。

実効線量 (mSv)	放射線業務従事者数 (人)			備考
	社員	請負等社員外	合計	
検出限界未満	12	33	45	
検出限界以上5以下	0	0	0	
5を超え15以下	0	0	0	
15を超え25以下	0	0	0	
25を超え50以下	0	0	0	
50を超えるもの	0	0	0	
合計人数 (人)	12	33	45	
集団実効線量 (人・mSv)	0.0	0.0	0.0	
平均線量 (mSv)	0.00	0.00	0.00	
最大線量 (mSv)	0.0	0.0	———	

2-2 放射性廃棄物の放出量

1) 放射性気体廃棄物

・法令に定める周辺監視区域外の空気中の濃度限度を超える放出は無かった。

		放出量 (Bq)	平均濃度 (Bq/cm <sup>3</sup> )
燃料・廃棄物取扱棟	トリチウム	*	$< 2.7 \times 10^{-7}$
	その他	*	$< 1.5 \times 10^{-9}$
機材・排水管理棟	トリチウム	$3.2 \times 10^5$	$< 2.5 \times 10^{-7}$
	その他	*	$< 1.6 \times 10^{-9}$
保管建屋	その他	*	$< 1.2 \times 10^{-9}$

\*：当該期間中すべての測定値が検出限界濃度未満であったことを示す。

法令に定める周辺監視区域外の空気中の濃度限度 (Bq/cm<sup>3</sup>)

トリチウム :  $5 \times 10^{-3}$  (性状：水)

その他の核種 :  $4 \times 10^{-6}$  (<sup>60</sup>Co)

2) 放射性液体廃棄物

・当該期間の放出実績は無かった。

<sup>3</sup> Hを除く 核種 (Bq)	<sup>51</sup> Cr (Bq)	<sup>54</sup> Mn (Bq)	<sup>59</sup> Fe (Bq)	<sup>58</sup> Co (Bq)	<sup>60</sup> Co (Bq)	<sup>131</sup> I (Bq)
————	————	————	————	————	————	————

<sup>134</sup> Cs (Bq)	<sup>137</sup> Cs (Bq)	<sup>89</sup> Sr (Bq)	<sup>90</sup> Sr (Bq)	その他 (Bq)	<sup>3</sup> H (Bq)	備考
————	————	————	————	————	————	

3. 環境の放射能の測定の結果

3-1 環境試料

・これまでと同程度であった。

区分	調査項目	場所	採取 年月日	平成 30 年度第 2 四半期				
				単位	核種	測定結果	過去の測定値の範囲 (H1~H29 年度)	
海洋 試料	海水*	排水口付近	H30.5.15	Bq/ℓ	全β	$3.1 \times 10^{-2}$	$1.4 \times 10^{-2} \sim 3.5 \times 10^{-2}$	
					<sup>60</sup> Co	N D	N D	
					<sup>137</sup> Cs	N D	N D ~ $4.4 \times 10^{-3}$	
	海底土*	排水口付近	H30.5.15	Bq/g 乾土	全β	$2.6 \times 10^{-1}$	$8.9 \times 10^{-2} \sim 3.7 \times 10^{-1}$	
					<sup>60</sup> Co	N D	N D	
					<sup>137</sup> Cs	N D	N D ~ $5.9 \times 10^{-4}$	
	海産 生物	コンブ	関根漁港沖	H30.9.13	Bq/g 生	全β	$2.5 \times 10^{-1}$	$2.3 \times 10^{-2} \sim 4.7 \times 10^{-1}$
						<sup>60</sup> Co	N D	N D
						<sup>137</sup> Cs	N D	N D ~ $1.6 \times 10^{-4}$

N D : 検出限界濃度未満であることを示す。

\* : Ge 半導体検出器の故障により、第 1 四半期にて報告が行えなかった海水、海底土の核種分析の測定結果等を記載。

3-2 積算線量(RPLD)

・これまでと同程度であった。

事 項	場 所	平成 30 年度第 2 四半期測定値		過去の測定値の範囲 (H25～H29 年度)
		測定 期間	自:平成 30 年 6 月 21 日 至:平成 30 年 9 月 21 日	
モニタリングポイント (積算線量測定)	気 象 観 測 所	104 $\mu$ Gy		89～107 $\mu$ Gy
	浜 関 根	115 $\mu$ Gy		89～116 $\mu$ Gy

※：測定値は 91 日換算

以上